

学生運営の「創ル部」が 2年目の合同学園祭

学生だけで企画、運営
1万5千人を動員

まだ夏の暑さが残る昨年9月23日の日曜日、「合同学園祭07」が金沢市の金沢中央公園で開催された。学生団体「創ル部」が主催し、1日限定のイベントながら1万5千人を超える来場者が多彩な催しを楽しんだ。

合同学園祭は昨年引き続きの開催で、学校の垣根を取り払い、企画から運営まですべてを創ル部の部員が担った。企業などが出展する33ものブースが会場を取り囲み、メインステージではクイズや



多くの来場者を集めた合同学園祭'07



トークで会場を盛り上げる

ダンスバトルなど華やかな催しが繰り広げられた。呼び物の一つ「ファッションショー」では、ミュージカル形式を取り入れるなど学生ならではのユニークなアイデアが光った。

「こんなに多くの学生がいるのに、なぜ金沢の学園祭はいまいち盛り上がらないのか?」そんな些細な学生の思いつきから始まった活動だが、最終的には石川県内の28校から集まった学生350人に、53社の企業が協賛する「金沢の学園祭」を作り上げたのだ。

スポンサー探しに苦労
3万円の協賛金に涙

前年度に引き続き、07年4月から活動を始めた創ル部「合同学園祭07実行委員会」。まずは告知を兼ね、金沢でも最大級のお祭りである「金沢(百万石祭り)」に参加した。



PR用のプラカードを手作りする部員

57人の部員がお揃いのTシャツにジーンズ姿で、曲の合間に入れる拍子を「合同学祭!」とアレンジして約3時間、市内を元気に練り歩いた。百万石祭りの来場者からは「何かやるの?」「頑張ってる」と声がかかる。5月には石川県と金沢市、大学コンソーシアム石川の後援が決定し、地域の人の温かい声援を受けた部員は皆「成功できる」と確信した。

学園祭の準備にあたっては、当初から大きな問題も抱えていた。初年度の協賛企業の一部から「支援打ち切り」を通告されていたのだ。開催日だけは決定していたにもかかわらず、資金はゼロで活動拠点もない。そんな逆境に意欲を駆りたてる部員がいる反面、不安定な状態は、時に部員の心を弱く

金沢を中心とする13の大学短大高専専門学校が、合同の学園祭を開催すべく立ち上がった。学生が、「自分たちの手で街を盛り上げたい」という思いが、約1万5千人の心をつかむことに成功したのだ。学都金沢で今、新たなムーブメントを起こそうと奮闘する私たち「創ル部」の活動を紹介する。



文学部 近藤珠実

もする。「開催なんて本当にできるのだろうか」と弱音を吐く仲間が続出した。しかし開催日も決まった今はやるしかない。初めて組む予算計画、資料作成、企業との交渉や連絡など、「分からないからできない」のではなく、「分からないけどやってみる」というスタンスを常に念頭に置き、私たちは挑戦を続けた。最低限必要な資金は300万円。夏休みには部員全員で企業の下アを叩き協力を求め、初めて協力してくれた企業からの3万円に涙した。学生らの熱意が伝わったのか協賛企業は徐々に増え、9月に入つてようやく開催の見通しが立った。

「金沢に感動と衝撃を」
3年目に向かって飛躍

最終的には成功を取めた2年目の合同学園祭だが、創ル部にはまだまだ課題が残る。多くの学生は卒業してしまつたため、後継者を育てなくてはならないのだ。活動場所はいまだに空き教室で、部の認



イベントの成功を喜ぶ創ル部のメンバー

知度もまだまだ低い。人を呼び込む学園祭だからこそ、もっと多くの人に楽しんでもらえるイベントや仕掛けも必要だ。「金沢に衝撃と感動を」をモットーに、「魅力ある学生の街を全国に伝えたい」と願うアツイ学生集団は、まだ動き始めたばかりなのである。

創ル部の合同会議は毎週水曜日から6時から石川県NPO活動支援センター「あいむ」(旧県庁舎2F)で、問い合わせはinfo@lukunbu.orgまで。